



TITLE:

花山だより(五月)

AUTHOR(S):

星見山人

CITATION:

星見山人. 花山だより(五月). 天界 1934, 14(159): 335-335

ISSUE DATE:

1934-06-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/165552>

RIGHT:

花 山 だ よ り (五 月)

滿洲で吹き上げられた土煙が次第に東に移つて、五月の初め頃花山はすっかり此の黃砂に包まれて了つた。月は赤銅色で輝きを失ひ、目の下の山科の燈火も僅かしか見えぬ有様、天文臺では眼視觀測が僅かに出来る丈であつた。併し全體から見て曇天の續いた四月よりは五月の方が成績がよかつた。今後毎月15日を油差日と定め、總ての器械の手入れをする事になる。今月は特に18輦屈折機のドーム及スリットの開閉困難なのを修理して、軽く動く様になつた。尚ほ同機の微動裝置故障に付き西村製作所にて修理中、都合に依りブラシヤを元ハイドのあつた所に移す事になり、4日臺員總出で運搬組立てをなす。今後のセツテイングは宮本氏がされる筈。電池室大型電池よりの配電線は今まで假工事であつたが8日島津製作所より所員來り本式の接續をなす。

三年程前に我が天文臺では寫眞講習會を開き大丸京都店寫眞部の宮川氏を聘して三日間講習を受けたのであるが、臺員の顔振れも其の頃とは大分變つたし、も一度聞き度いと言ふ議が起り、去る四月30日第一回を開き續いて五月7日と21日とに開かれ、まだ續く豫定である。又、毎月一回土曜日に常設講座を開くことになつた。之は天文關係の人々が集まつて、天文以外の諸々の事柄に就いて其の専門家から話を聞かうと言ふ講座である。第一回は駒井卓博士の「遺傳の話」が四月21日に開講の豫定であつたが相憎大風雨だつたので延期される事になり、五月12日に京都自動車學校々長梅村英氏の「自動車の話」が第一回として開かれた。

五月11日に山科署の警官來り工場地の空氣汚染程度検査が行はれるに就き、最も清淨なる場所として花山を撰んだから「空氣汚染測定布」を置かせてもらい度いとの事であつたので、子午線館東端に設置する事にする。又た22日には八坂消防署長が見え、火災に關する諸注意あり。殊に水利の便なき所故、少なくとも1500石の容積ある貯水池を作つて頂き度いとの事であつた。其の夜自分は、構内に大貯水池が出来て夏はプールに、冬はスケートリンクに用へる様になつた夢を見た。

26日は例會、同夜は好晴にて、夜間公開は盛況であつた。(星見山人)